

『西南仁道孝演歌』から見たベトナム人の「孝」思想

佐藤 トウイウエン

The “filial piety” thought of Vietnamese people seeing from the “*Simplification of Southwest Twenty-eight Filial Exemplars*”

SATO Thuy Uyen

“*Simplification of Southwest Twenty-eight Filial Exemplars*” was edited by Hoang Cao Khai and Truong Cam Luu, written about story of 28 Filial Exemplars of Vietnamese and Western people by Nom script under a form of prose and poetry called “seven-seven-six-eight”. So, we can see “filial piety” thought of Vietnamese through it. “*Simplification of Southwest Twenty-eight Filial Exemplars*” has been mixed quoc ngu characters together with Nom script. That is the one of the characteristics of the literature of the early 20th century in Vietnam. Through the overall content of 28 stories, we can classify “filial piety” to 10 kinds. And then, “filial piety” thought of Vietnam will be described to 7 kinds such as “filial piety” is closely tied to the “Loyalty”, “Rite”, “Virtue”, “Ancestor worship”, “maintaining traditional family education”, “an adoptive parent” and it is the essential basic of human morality... etc. Although for this document, we can see that Vietnam society had an approaching the interchange of Western culture, tends to be global society and changed on idea, thought, the spirit not emphasis on Chinese culture such as self-centeredness one as before. The spirit of “filial piety” of Vietnam had been converted from the home culture, basic morals into social morality. Due to it, a lot of faithful retainers for the country and a filial children for the family were born. So, this document was a constant value not only in feudal society but also in modern society.

キーワード：西南仁道孝演歌、ベトナム、「孝」思想、黄高啓、張甘榴、字喃文
献

はじめに

「二十四孝」説話が中国からベトナムに伝わったあと、「二十四孝詠」、「二十四孝演歌」、「補正二十四孝傳衍義詞」、「四十八孝詩画全集」、「西南仁道孝演歌」などの「二十四孝」説話に関する文献が誕生した。筆者はこれまでそれらの文献のいくつかについて論考を発表したが¹⁾、これらはいずれも中国の

1) 佐藤 トウイウエン 「ベトナムにおける「二十四孝」と字喃文献」(『東アジア文化交渉研究』東アジア研究科開設記念号、東アジア文化研究科、2012年3月) 243～262頁、“Initial Studies in “Twenty four filial piety children” in Vietnam” (Boundaries in Literature、ホーチミン市師範大学出版社、2011年12月) 607～621頁、および「補正二

「二十四孝」説話を注釈、解説したものである。このうち、『西南仁叟孝演歌』のみはベトナム人および西洋・日本の孝子28人の説話を収載するという独特の内容になっている。「二十四孝演歌」は民衆に広く流布し、「補正二十四孝傳衍義詞」は皇室内でよく読まれた。一方、『西南仁叟孝演歌』は「二十四孝演歌」ほど広くは流布しなかったものの、『西南仁叟孝演歌』の原本は「子が親孝行をしなければならぬ」という作品であり、もともとフランス植民地時代の『東洋雑誌』²⁾に掲載された。さらに、国語字（現代ベトナム語）に翻訳、出版されたため、一定程度民衆レベルにまで流布し、ベトナム人の「孝道」観念に影響を与えたと見て間違いのないであろう。「二十四孝演歌」、「補正二十四孝傳衍義詞」、「西南仁叟孝演歌」の三者は母語の文字である字喃や、押韻・平仄律をもつ詩歌形式である「双七六八体」で書かれた作品であるため覚えやすく、民衆性と伝承性が高かったのである。

本稿はハノイ漢喃研究院蔵の『西南仁叟孝演歌』（VNv. 62）を中心に、ベトナムにおける「孝」思想の展開の一端を明らかにしたい。

一 ベトナムにおける『西南仁叟孝演歌』の流布状況

現在、ハノイ漢喃研究院、ホーチミン市総合科学図書館およびベトナム国家図書館には漢喃および国語字で書かれた三つの「二十四孝」関係文献が所蔵されている（後述）。まず、これらの文献の書名にある「西南」、「演歌」の語について検討してみたい。「南」（Nam）はベトナムの意味であり、「西」（Tây）は西洋のことである。ベトナム人は、かつて自国を南（Nam）および南国（Nam quốc）と呼びならわしており、例としては、李朝の名将である李常傑（Lý Thường Kiệt）の作品とされる「南国山河」（*Nam quốc sơn hà*）³⁾という詩に「南」および「南国」の語が見える。

南国山河

南国山河南帝居

截然分定在天書

如何逆虜来侵犯

汝等行看取敗虚

また、中国の文献などを字喃の「六八体」や「双七六八体」の詩に書き改めた場合には、書名の後に“diễn ca”「演歌」、「diễn nghĩa」「演義」、「diễn âm」「演音」、「diễn nghĩa ca」「演義歌」、「giải âm」「解音」などの語がつけられる。

次に、ハノイ漢喃研究院、ホーチミン市総合科学図書館およびベトナム国家図書館に所蔵する三種の

十四孝傳衍義詞」をめぐる」（日中韓フォーラム発表、2012年7月21日）。

2) 『西南仁叟孝演歌』の張甘榴の序文には、このことが記されている。『ベトナム文学史要』にも「黄高啓氏の「子は親孝行をしなければならぬ」は『東洋雑誌』60号に掲載されている」とある。Đương Quảng Hàm, *Việt Nam văn học sử yếu* 『ベトナム文学史要』（Bộ giáo dục Trung tâm học liệu 出版、1968年）400頁参照。筆者は『東洋雑誌』を調べたが、ベトナム国家図書館の目録には同誌は所蔵しているものの、60号は欠けているとのことである。

3) 陳荊和『大越史記全書』校合本、本記全書卷之三（東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター刊行委員会、1984年）、249頁。

関連文献について紹介しておく。

1. ハノイ漢喃研究院所蔵の漢字字喃文献

①『西南仁叟孝演歌』（VNv.62）

『西南仁叟孝演歌』は黄高啓の作であり、張甘榴によって字喃に翻案された。冒頭に二つの序文および作品を総括する歌を掲載する。福安堂から1923年2月5日に刊行された。合計22葉⁴⁾の漢字字喃刊本で、ベトナムと西洋・日本28人の孝子の説話が「双七六八体」⁵⁾の字喃で翻字されて収められている。詳しくは後章で紹介する。

2. ホーチミン市総合科学図書館、ベトナム国家図書館所蔵の『西南仁叟孝演歌』関連文献

② *Tây Nam Nhị thập bát hiếu diễn ca*（『西南二十八孝演歌』）

1971年に Ủy ban dịch thuật Phủ Quốc Vụ Khanh đặc trách văn hóa から出版された。この書物は Vũ Văn Kính 氏が漢喃研究院所蔵の『西南仁叟孝演歌』を国語字に訳した158頁を含む。内容は二つの部分に分けられている。第一篇は Vũ Văn Kính 氏の序文、『西南仁叟孝演歌』についての評価、国語字に訳された張甘榴、黄高啓の二つの序文、総歌、28人の孝子の説話の本文、目次、訂正表である。第二篇には『西南仁叟孝演歌』の漢字字喃原文を載せている。

③ *Hai mươi gương hiếu Việt Nam*（『ベトナムの二十の孝行の鑑』）

1994年に Trẻ 出版社から出版された。この書物には Vũ Văn Kính 氏が国語字に訳した *Tây Nam Nhị thập bát hiếu diễn ca*（『西南二十八孝演歌』）からベトナム20人の孝子の説話を抜き出して編集した96頁を含む。内容は二つの部分に分けられており、第一篇では訳者の序文、国語字に訳された張甘榴の序文、総歌、28人の孝子の説話の本文、附録として114字喃の語釈などがある。第二篇では字喃の散文部分を除いた『西南仁叟孝演歌』の「双七六八体」の詩のみの原本を載せている。

これら三つの文献のうち、②、③はいずれも①『西南仁叟孝演歌』に基づいて国語字に訳されたものである。すなわち、①が原本であり、これらのうち唯一の字喃文献ということになる。したがって本稿では、三者のうちハノイ漢喃研究院所蔵の『西南仁叟孝演歌』を中心に考察したい。

二 『西南仁叟孝演歌』と作者

『西南仁叟孝演歌』は西洋・日本およびベトナムの孝子28人の説話を字喃によって記した部分と、こ

4) 『ベトナム漢喃遺産——書目提要』には44頁とある。Viện Nghiên cứu Hán Nôm và Học viện Viễn Đông Bắc Cổ Pháp, *Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu* 『ベトナム漢喃遺産——書目提要』（Khoa học Xã hội出版社、1993年）97頁を参照。

5) 「六八体」および「双七六八体」とは、ベトナム語の独自の短詩形慣用表現である。五言・七言という中国における詩歌形式にもとづき、押韻・平仄などの規則をふまえて2行以上の6音、8音を交替させるのが「六八体」、4行以上の7音、7音、6音、8音を交替させるのが「双七六八体」の詩歌形式である。この二つの詩歌形式は漢詩、中国の文献、儒教経典を翻訳・解説した作品や、ベトナムの歌謡、民謡など民間文学の作品によく使用された。

れをさらに字喃の「双七六八体」で翻案した部分に分けられる。前者の編者は黄高啓であり、後者の編者は張甘榴である。

1 黄高啓の経歴

黄高啓（ホアン・カオ・カイ、Hoàng Cao Khải）の経歴に関する資料は、筆者の調査によれば、『漢喃書目——作者目録』⁶⁾、『ベトナム文学史要』⁷⁾、『ベトナム作者たちの略伝』⁸⁾、『ベトナム漢喃の作者の字、号』⁹⁾、『文学字典』新版¹⁰⁾、『我が国の歴史上問題がある人物』¹¹⁾、『ベトナム史略』¹²⁾、『ベトナム文学史起草——字喃文學』¹³⁾、『大南寔録』正編第六紀附編¹⁴⁾がある。このうち『大南寔録』のだけが漢文で書かれ、他の九点は国語字の文献である。

国語字の文献には黄高啓の氏名、字、号、著作の紹介のほか、フランス植民地政権の協力者であったという彼への批判的意見などが多く、重複する記述もかなりあるため、ここでは最も基本的な資料である『大南寔録』の関連記述のみを引用する。

『大南寔録』を調べると、

建福元年（1884）、以河内按察遺缺春育前莅應和府、清勢已諳復、準以新陞銜改領該省按察使、協同侍講充摯辦黄高啓〔原壽昌縣知縣、該員節次商同法官勦捕諸匪、最爲得力、陞是銜〕督飭捕弁勦拏諸渠目、要得一律到案、以絶惡莠而寧地面¹⁵⁾。

6) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm —— mục lục tác giả* 『漢喃書目——作者目録』（Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年）、77頁。

7) Dương Quảng Hàm, *Việt Nam văn học sử yếu* 『ベトナム文学史要』（Bộ giáo dục Trung tâm học liệu 出版、1968年）、393～394頁。

8) Trần Văn Giáp, *Lược truyện các tác gia Việt Nam* 『ベトナム作者たちの略伝』（Văn học 出版社、2000年）486～488頁。

9) Trịnh Khắc Mạnh, *Tên tự tên hiệu các tác gia Hán Nôm Việt Nam* 『ベトナム漢喃の作者の字、号』（Khoa học xã hội 出版社、2002年）391、392頁。

10) Đỗ Đức Hiểu 他, *Từ điển văn học bộ mới* 『文学字典』新版（Thế Giới 出版社、2004年）604～605頁。

11) Vũ Ngọc Khánh, *Người có vấn đề trong sử nước ta* 『我が国の歴史上問題がある人物』（Văn hóa - Thông tin 出版社、2008年）254～264頁。

12) Trần Trọng Kim, *Việt Nam sử lược* quyển 2 『ベトナム史略』第2冊（Bộ giáo dục Trung tâm học liệu 出版、1971年）、339頁。

13) Thanh Lăng, *Khởi thảo văn học sử Việt Nam văn chương chữ Nôm* 『ベトナム文学史起草——字喃文學』（Phong trào văn hóa 出版社、1953年）56～57頁。

14) Cao Tự Thanh 訳、*Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỷ phụ biên*（『大南寔録』正編第六紀附編、Văn hóa văn nghệ 出版社、2011年）巻一78、99頁、巻二119頁、巻三142頁、巻四157頁、巻八262頁、巻九281、284頁、巻十一323、334頁、巻十三374頁、巻十四395頁、巻二十四553頁。この書の序文によると、「『大南寔録』正編第六紀附編の漢文版はパリのL'Ecole Francaise d'Extrême Orient-EFEOに所蔵されている唯一の写本（Viet/A/Hist/9）である」とある。ベトナムではCao Tự Thanh氏が国語字に訳した*Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỷ phụ biên*のみがある。今回は国語字訳のみを参照した。

15) 阮朝国史館『大南寔録』正編第五紀巻五「大南寔録十九」（慶応義塾大学言語文化研究所、1980年）、75頁。〔 〕内は双行注。

咸宜元年（1885）、準侍講充河内摯辦黃高啓、陞授光祿寺少卿、領布政使、權充興安巡撫¹⁶⁾。

同慶元年（1886）、準光祿寺少卿領興安巡撫黃高啓、陞光祿寺卿仍領¹⁷⁾。興安撫臣黃高啓、冊將去年九十十一等月、該撫臣節將員兵並隸派募勇人等、協同法官勦辦蘆匪均獲勝伐。準督遣得力之該撫臣、賞金幣一面¹⁸⁾。

同慶二年（1887）、準署興安巡撫黃高啓、寔授加署理總督銜仍領巡撫、兼東北興三省勦撫使¹⁹⁾。興安撫臣黃高啓、將勦匪現情咨院言去臘前往、有匪各轄、勦辦、節次勝伐、凡七陣、生獲匪渠目數多〔渠十目十二〕²⁰⁾。興安撫臣黃高啓、冊將去年十一月、來勦辦東北興三省在、行員兵節次功狀分項擬賞、準賞陞賞授凡八十三員人²¹⁾。

同慶三年（1888）、以署理總督銜領興安巡撫黃高啓、陞授海安省總督²²⁾。

とある。これに国語字の資料九点の記述をあわせて黄高啓の経歴と作品について整理すれば、以下のとおりである。

黄高啓は別名を Hoàng Văn Khải（ホアン・バン・カイ、黄文啓）、字を東明（Đông Minh）、号を泰川（Thái Xuyên）という。河静省（tỉnh Hà Tĩnh）羅山県（huyện La Sơn）東泰村（làng Đông Thái）の人で、嗣徳3年（1850）に生まれた。嗣徳21年（1868）、举人（科挙試験の一つである郷試合格者の称号）となり、王宮の各部や懷徳府の教授に任命された。当時、フランス植民地政権はベトナム全国に保護領の政治を完璧に設定したが、民衆の一揆が連続して起きた。黄高啓はこれらの鎮圧に派遣され、勝利を勝ち取ったため、朝廷およびフランス植民地政権から高い官職と爵号を授与された。

建福元年（1884）、侍講充摯辦となった彼は（元寿昌県知県の時にフランスの官吏と一揆の撃滅についてよく相談し、有能さを示したため、この爵位に昇格した）、河内按察に昇格した春育と協同して全力で一揆を撃滅し、地域の治安を安定させた。咸宜元年（1885）、光祿寺少卿にのぼり、布政および興安巡撫という職務に補された。同慶元年（1886）、光祿寺卿になり、以前の職をそのまま担当した。彼は前年（引用者注：1885年）9月、10月、11月にフランスの官員と協同して、蘆の賊（すなわち khởi nghĩa Bãi Sậy〔擺莖一揆〕とも呼ばれる）を撃滅し、勝ち取った事情を報告する疏を帝に奉り、一面の金幣を授与された。同慶二年（1887）、署理總督に抜擢され、巡撫および海陽、北寧、興安という三省の剿撫使を兼職した。彼は7回戦いに勝ち、多くの一揆の指導者（10人の渠魁、12人の頭目）を捕えたという現状を報告した。

彼は帝に去年11月、海陽、北寧、興安の三省で賊を平定した官員・兵士の功績を報告し、賞を与えるよう願う疏を奉った。帝は83人に賞を与える命令を出した。同慶三年（1888）、彼は海陽、寛安の二省の總督となった。成泰元年（1889）、太子少保、「延茂子」という爵号を授かった。成泰二年（1890）、兵部

16) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷一「大南寔録十九」、143頁。

17) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷三「大南寔録十九」、184頁。

18) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷三「大南寔録十九」、238頁。

19) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷六「大南寔録十九」、245頁。

20) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷六「大南寔録十九」、249頁。〔 〕内は双行注。

21) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷七「大南寔録十九」、283頁。

22) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷十「大南寔録十九」、339頁。

尚書に抜擢され、北圻経略使となった。成泰三年（1891）、輔政大臣、署武頭殿大学士に補せられたが、以前と同様、欽差経略大使という職も担当している。成泰四年（1892）、武頭殿大学士を授けられた。成泰八年（1896）、「延茂伯」を授与された。成泰九年（1897）、フランス植民地政権は北圻経略局を解体したため、フエ都に派遣され、成泰帝の輔政大臣となった。同年、成泰帝の皇弟に教えるため太子少傅という爵号も授かった。成泰十一年（1899）、「延茂郡公」を授与され、工部の事務も担当した。成泰十三年（1901）、文明殿大学士に補せられた。成泰十四年（1902）、彼は帝に職を退く希望を許された。維新五年（1911）、Luce 全権大臣は東洋上議院の会員の選任を議定した際、黄高啓を選定した。保大八年（1933）、83歳で死去した。彼の二人の子息も総督の職に就き、勢力、名望が高い。政治以外、彼は歴史の遺跡を修復すること、詩の評論会を行うことなど文化の活動にも気を配った。

彼の作品については、*Việt Sử yếu*（『越史要』）、*Việt Nam sử yếu bổ di*（『越南史要補遺』）、*Việt sử kinh*（『越史鏡』）、*Nam sử diễn âm*（『南史演音』）、*Nam sử quốc âm*（『南史国音』）、*Trung hiếu thần tiên*（『忠孝神仙』）、*Làm con phải hiếu*（『子が親孝行をしなければならない』）、*Guơng sử nước Nam*（『南史の鑑』）、*Đàn bà nước Nam*（『ベトナムの婦女』）などの書物を多く著した。このほか、*Quốc triều hương khoa lục*（『国朝郷科録』）、*Tây Nam hai mươi tám hiếu diễn ca*（『西南仁進猷孝演歌』）、*Bài ngoại mậu kiến liệt truyện*（『排外謬見列伝』）、*Bút hoa tùy lục*（『筆華随録』）、*Cẩm ngữ*（『錦語』）、*Chư đề mặc*（『諸是默』）、*Đại gia bảo văn tạp biên*（『大家宝文雑編』）、*Giai văn tập ký*（『佳文集記』）、*Hoàng triều hàn lâm viện thực lục*（『皇朝翰林院実録』）、*Long tuyển thi sách*（『竜選試策』）、*Mộng hải văn tập*（『夢海文集』）、*Phủ man tạp lục*（『撫蛮雑録』）、*Tạp lục*（『雑録』）、*Thi văn đối liên tạp lục*（『詩文対聯雑録』）、*Tỉnh thần chúc hồ ca văn*（『省臣祝嘏歌文』）、*Hải Hạnh Lê Công văn tập*（『海杏黎公文集』）などに収録されている詩文がある。

彼は知識人であるが、フランス植民地政権と協力し、民族の権利を抑圧したため、当時の学識者には尊敬されなかったという。

2 張甘榴の履歴

黄高啓と違い、張甘榴（チュオン・カム・ルー、Trương Cam Lộ）についての資料はほとんどない。それは張甘榴氏が官吏ではなく、著作も多くないためであるだろう。『漢喃書目——作者目録』のみに、「張甘榴、河東省常信縣上亭村の人である。編著としては『西南仁進猷孝演歌』（VNv. 62）がある」²³⁾と簡潔に述べられているにすぎない。

3 『西南仁進猷孝演歌』の誕生の背景および創作の動機

かつて李文馥は中国の「二十四孝」説話の内容を引用しつつ「二十四孝演歌」を字喃に翻字し、民衆に広く流布し、読まれた。しかし、その説話は外国人（中国人）の孝子の説話であるため、地名、氏名を詳細に記載したベトナム人の孝子の説話を集めることができるならば、ベトナム人にとって、親密な気持ちが湧いて心引かれ、「孝」の教育の役割を最も高めるであろうと考えるのは自然な成り行きであ

23) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm —— mục lục tác giả* 『漢喃書目——作者目録』（Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年）391頁。

る。そこで『西南仁進歌』が誕生した。この作品の誕生の背景および創作の動機は黄高啓および張甘榴の序文の中で明記されている。

『西南仁進歌』の黄高啓序文には、

碧翁李文馥共固祖余歌孝子若翁、撰祖仁進歌多番俳歌国語、底朱彈妃羅琨易讀共尋祖孝麻勸朱歌。
仍讀付歌若翁、躬感動朱悉歌群、麻讀付歌若翁、躬感動祖悉輪罕共勉、鍼之些歌力尋劍各册若些、
共扣奇矢吧進付底麻聘貝若翁。遠躬創付、躬解釋祖匹勾、送尋播新事朱歌也過、送尋撥燒燐朱歌
現在。

（以前、李文馥氏は中国の二十四人の孝子を選択し、婦女、子供に読みやすくしつつ、「孝」の実践を勧めるために国語²⁴⁾の詩歌を作った。しかし、他の国の人の説話にはそれほど感動しなくても、わが国の人の説話を読む場合、確かに感動の程度がより高くなるのは間違いない。そこで私はわが国の書物を探すことに尽力し、中国の孝子の説話と比較するため、数十の説話を拾い出し編集した。上には説話の本文を置き、下には文章の解釈の部分を置いてある。まずは新しいことを伝え、次は現在の人々の手本にするためである。）

とある。また張甘榴の序文にも、

倅課魁、常常吟詠傳二十四孝演歌貼具李文馥、號隣芝。閉睞共色積擬、牢空演若些歌帝奇。擬勞雅吏倘然如空丕。極倘然麻悶捐出祖祖匹傳、共羅有恒心無恒産麻催。麻沛、徐辭嗣德術魁、若些課廟學誼册、梓役科挙術分勉鉛頭空双、群吟帝暇及册格。吏傳若翁、晒固仍科挙用、歌貼共登、化馳傳魁昧麻共空別。鍼之具李只演傳繪多扒斫。啗遣悶演歌若些共繡麻謀特吧進傳。送畝、秩同輩固内：各傳孝行歌若些貼具郡黄高啓、東明泰川相公、登於報東洋雜誌。…庫珠寶無盡貼造物悲吟買固國老扣番特。…仍吏擬、孝繪孝些色悵餐卒、盼天下風潮祖洲史傳、據册麻演余傳孝西孝些、底燐符此理此心。送哪命家嚴、演孝些孝西奇矢仁進歌傳、傳孝中華時色具李演魁雅、空沛内女。

（私は以前、いつも李文馥、号隣芝の「二十四孝演歌」を吟詠していた。その時、なぜ、わが国の人の説話を編集しなかったのだろうかと考えたが、何もできなかった。多数の説話を編集したい気持ちはあったが、力が不足であった。嗣德時代（筆者注：1847-1883年）以降、科挙の受験のため、我が国の子供は小さい頃から中国の本を読ませられた。科挙の受験の書物を学習することだけで白髪になっても全ての書物、知識を学ぶことができないため、他の書物を学習する時間はなかった。わが国には歴史的説話があったのに、科挙試験にまれにでも使用されることはなかった。この類の書物を見る人が少ないため、自分の目の前にこのような説話が存在していることに気づかなかったのだ。そのため李文馥は、みなを鏡として見習うように、中国の孝子の説話のみを字喃に翻字した。わが国の孝子の説話を編集したいが、数十の説話が出来上がるのは容易なことではない。ある日、同輩から黄高啓・東明泰川相公が編集されたわが国の孝子の説話が『東洋雑誌』という新聞に記載されたことを知った。……無限の宝庫は今や、相公によって拾い出された。……しかしまた、中国の孝子の説話もわが国の孝子の説話もよい鑑であるが、現在は世界中の史伝に

24) 国語および国音というのはこの場合、字喃の意味である。

広がる潮流があり、「此理此心」²⁵⁾ という語が示すように、いくつかの西洋の孝子の説話とわが国の孝子の説話を字喃で翻案した。そして家父の命令に従い、李文馥がすでに中国の孝子の説話を字喃で訳していたため、西洋の孝子とわが国の孝子すべて28人の説話を字喃で翻案した。）

という。

創作の動機はここに明らかにされたとおりである。これは、ベトナム人が「孝」の教育、流布とともに、みずからの民族性を重視するようになったことを示すものといえよう。

4 ベトナム社会における『西南仁叟孝演歌』の位置

上述した *Tây Nam Nhị thập bát hiếu diễn ca* (『西南二十八孝演歌』) に載せる『西南仁叟孝演歌』の評価において、Vũ Văn Kính 氏は「Lý Văn Phức 氏の『二十四孝演歌』は以前の政府によって小学校の教育プログラムに入れられたため、幅広く普及した。一方、張甘榴氏の『西南仁叟孝演歌』はまだ国語字に訳されていなかったため、この書物について知る人は少なかった」²⁶⁾ とある。

現在でも、ベトナムでの書店では Lý Văn Phức 氏の『二十四孝演歌』が市販されているが、『西南仁叟孝演歌』は置かれていない。このことも『西南仁叟孝演歌』が『二十四孝演歌』ほど広く知られていないこと物語るものである。

5 『西南仁叟孝演歌』の形態

『西南仁叟孝演歌』にはベトナム人が20人、フランス人が4人、イギリス人が1人、アメリカ人が1

人、日本人が1人、イタリア人が1人の、内外28人の孝子説話が収録されている。まず字喃の散文を掲げたあと、その意味を解説した字喃の「双七六八体」の詩28篇がつけられている。

扉の右側には「龍飛啓定壬戌冬十二月立春日²⁷⁾」、「常信／上亭」、「石庵張甘榴撰」とありいう、中央には「西南仁叟孝演歌」という書名が大字で記され、左側には「駟嘯齋胸仁麟送肝脰慕仁叟匹」、「行菱肅／数舡送」、「福安堂藏板」とある(図1参照)。

ここから、『西南仁叟孝演歌』は張甘榴、字石庵によって字喃に翻案され、啓定帝時代の壬戌冬十二月立春日(1923年2月05日)に51号 Hàng Khay 道の福安堂で刊行されたことがわかる。全22葉の刊本で、高さ28センチ、幅11センチ。内容は、総歌(「六八体」の詩体で書かれている)、二つの序(黄泰川相公原序、張甘榴の序文)、黄高啓によって散文で編纂された28人の孝子の説話の原文、張甘榴が

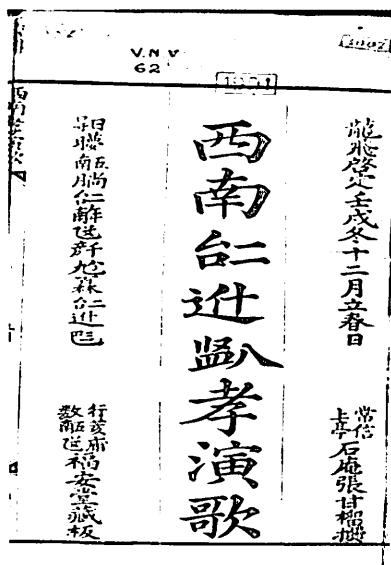


図1 『西南仁叟孝演歌』扉

25) 「此理此心」とは共通の道理、共通の心をみな持っているということ。

26) Vũ Văn Kính 訳および注解, *Tây Nam Nhị thập bát hiếu diễn ca* 『西南二十八孝演歌』(Ủy Ban dịch thuật Phủ quốc vụ khanh đặc trách văn hóa 出版、1971年) 11頁。

27) 「龍飛」とは『易』乾卦の「飛龍在天」にもとづく語であり、皇帝が即位しているという意味である。



図2 『西南仁進凱孝演歌』第3葉表



図3 『西南仁進凱孝演歌』第7葉裏

その意味を字喃の「双七六八体」の詩体で作った28篇の詩、張甘榴の跋、漢文の文昌帝君勸孝文の順序で構成されている。また、総歌の部分を除き、各頁は上下二つの部分に均等に分かれている。上部には黄高啓によって編纂されていた28人の孝子の説話の原文を載せ、各説話には標題がつき、説話のおわりにはそれぞれ黄高啓の跋が記されている。各標題は「次^ニ叱^セ叱^セ嚴^ニ飛^セ孝」、「次^ニ巴^セ孫^セ蛇^セ如^ニ孝」といったように、題目とその順序が示されている（図2上段の傍線部分を参照）。下段部分には28篇の詩が連続して載せられているが、詩に標題がつけられていないために、切れ目がわかりにくい。各詩の最後の文字の横に「◎」がつけられ、次の詩と区別するようになっている（図2下段参照）。また、第8篇および第20篇の詩の後に、附録として范春魁（梅亭）と范元蛤（菊亭）の詩をつけ加えている（図3下段の傍線部分を参照）。

28人の説話の順序は皇帝、皇女、官吏、民衆、外国人であり、次ように配列されている。（ ）内は筆者が補った孝子の氏名および標題の日本語訳である。

1. 次^ニ叱^セ叱^セ嚴^ニ飛^セ孝（陳英宗帝、第1 厳しい父、孝行の子）
2. 次^ニ仁^セ孝^セ情^セ碇^セ碇^セ（明命帝、第2 孝と情の軽重）
3. 次^ニ巴^セ孫^セ蛇^セ如^ニ孝（紹治帝、第3 孫がこの上ない孝心をもって祖母を奉ずる）
4. 次^ニ罰^セ認^セ愧^セ在^ニ輪^セ（嗣徳帝、第4 自分の過失を認める）
5. 次^ニ紐^セ襖^セ忠^セ多^セ孝（興道大王、第5 忠を孝にする）
6. 次^ニ杼^セ主^セ挺^セ跪^セ吒^セ（韶陽公主、第6 父が亡くなったあと、子も亡くなる）
7. 次^ニ黜^セ推^セ孝^セ器^セ忠^セ（阮廌、第7 孝から忠になる）
8. 次^ニ胤^セ猶^セ鉞^セ歌^セ悉^セ（阮文程、第8 母の治療のため、針鼠を捕えるよう尽力する）

9. 次尙虎祭吒（阮文名、第9 虎の肉を父に祭る）
10. 次進打毬救嫗（阮春盎、第10 虎を打ち、母を救う）
11. 次進毬捕猓猓嫗（阮九逢、第11 子を見捨て、母を背負う）
12. 次進娘姉節孝（氏名不明、第12 孝行の嫁）
13. 次進叱賢猓孝（阮文就、第13 優しい父、孝行の子）
14. 次進罽嫗貞猓孝（阮文璚、第14 貞婦の母、孝行の子）
15. 次進罽貨物忒親（黄金燦、第15 物を見て親を思い出す）
16. 次進毬毬罪朱吒（阮居仕、第16 父の代わりに罪を受ける）
17. 次進毬批糝餒親（阮弘、第17 米を搗き、父に孝養する）
18. 次進罽窶處家庭（阮庭済、第18 巧みに家政を処理する）
19. 次進尙孝友論院（潘三、第19 孝悌を完璧に実行する）
20. 次仁進強強孝（裴輝賛、第20 年をとればとるほど親孝行をする） *以上、ベトナム人
21. 次仁進毬麻忠孝（嘯毬膠、第21 若い年齢であるが忠孝である）
22. 次仁進罽糝餒吒嫗（氏名不明、第22 給料で親に孝養する）
23. 次仁進叱供猓敬誠（刊、第23 命日に誠心こめて供養する）
24. 次仁進罽特覓吒（咽森斌、第24 父にいつでも会える） *以上、フランス人
25. 次仁進罽猓布越賊（阿悲厥、第25 賊から逃げるために父を背負う） *イタリア人
26. 次仁進毬毬忒親（各能、第26 高貴になったとき、親を思い出す） *アメリカ人
27. 次仁進毬針針救吒（拵盼壁泥、第27 魚を刺し、父を救う） *イギリス人
28. 次仁進罽糝於餒嫗（伊那阿、第28 母に孝養するため、召使いとなる） *日本人

『西南仁進猓孝演歌』はベトナムがフランス植民地になった時期に著わされたが、編著者はベトナム人の孝子の説話をフランス人の孝子の説話よりもはるかに多く載せ、順序も優先させている。また、外国人の孝子としてはフランス人以外に、イタリア人、アメリカ人、イギリス人、日本人を入れたこと、中国人を載せていないことは、ベトナムの民族性の自覚とともに、ヨーロッパやアジアに広く目を向けようとする20世紀初頭の潮流を反映しているといえよう。

三 『西南仁進猓孝演歌』の字喃の考察

『西南仁進猓孝演歌』は、既述したとおり、総歌、二つの序、黄高啓が編纂した28人の孝子の説話の散文、張甘榴による28篇の詩、張甘榴の跋、漢文の文昌帝君勸孝文という順序で構成されている。

このうち詩の部分は張甘榴が「双七六八体」で書かれている28篇の詩のほか、附録として范春魁（梅亭）氏の三篇の詩（このうち、二篇が「六八体」で、一篇が「双七六八体」で書かれている）、范元蛤（菊亭）氏が「双七六八体」で書いた一篇の詩がある。張甘榴の28篇の詩は496句で3472字あり、范春魁（梅亭）氏の三篇の詩は36句で252字あり、范元蛤（菊亭）氏の一篇の詩は20句で140字ある。

張甘榴の28篇の詩のうち、20篇の詩はベトナム人の孝子の説話であり、8篇の詩は西洋・日本の孝子



図4 『西南仁進孝演歌』第14葉裏

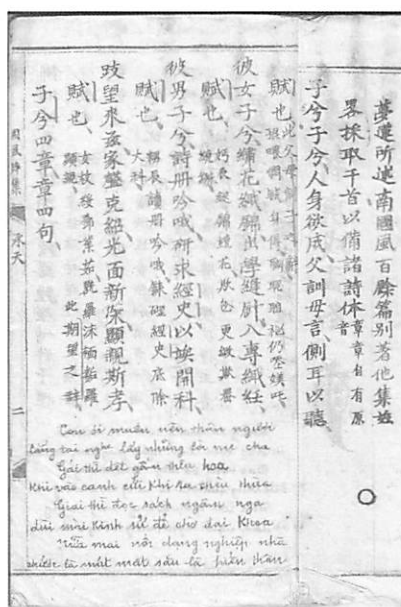


図5 『國風詩集合採』（維新庚戌（1910）、観文堂蔵版本）第2葉表

の説話というように、二部に分かれている。

このうち、第一部は、最初の12句がベトナム人の孝子の「導入部」で、次の13句から320句までが20人のベトナム人の孝子の詩である。そして、第二部は、321句から328句までが外国人の孝子の「導入部」で、329句から492句までが外国人の孝子の詩であり、最後の493句から496句までが「まとめ」として詳細に構成されている。なお、字喃3472字のうち、特別の読み方がある難しい字喃の後に国語字106字をつけ加えている（図4下段の傍線部分を参照）。

1 国語字を交えた意義

20世紀初めに誕生した多くの文献には、漢字字喃の行中に国語字を交えているもの（図4参照）、国語字併記（字喃本文の下段に国語字の転写文を記す）のもの（図5参照）という二種類がある。『西南仁進孝演歌』は20世紀初頭に誕生したため、「補正二十四孝傳演義詞」、「二十四孝演歌」など19世紀に刊行された文献とは異なり、字喃の行中に国語字を交えているが、それは独自の意義を持っている。

国語字を交える理由を考察するにあたり、『西南仁進孝演歌』出版当時、すなわち20世紀初頭の文字使用状況について概観しておきたい。

ベトナム式ローマ字正書法は、19世紀末から20世紀初頭に活躍した南部出身の知識人 Trương Vĩnh Ký により chữ Quốc Ngữ（国語字）と名づけられた。19世紀末のフランス植民地期当初、国語字を積極的に使用したのはカトリック教徒など、親仏的なベトナム人に限られた。伝統的な知識人層にとっては漢文・字喃文が学ぶべき書き言葉であり、国語字はその範疇外にあったのである。ところが、20世紀初めに植民地体制が安定してくると、まず直接支配下に置かれたコーチシナでフランス語と国語字を操る新たな知識人層が形成され、その後トンキン及びアンナンにおいても同様の知識人層を養成するために、1906年、植民地政庁により「仏越学校」が創設された。これと同時に科举試験にもフランス語と国語字が課

された²⁸⁾。『ベトナム文学史要』にも、「1906年5月31日の勅諭にもとづき、郷試および会試のプログラムには一部分が変わることになった。それは国語字およびフランス語の項目を加えたことである」とある²⁹⁾。

このように20世紀初頭、北・中部ベトナムにおいて国語字の地位の変化が起こり、科挙との関係からそれが積極的に学ばれたものと考えられる。『西南仁進歌』のような形式は、おそらくこうした状況を反映しており、それまで書き言葉として漢文と字喃文を習得することで事足りていた北部出身の知識人たちが国語字を知り、フランス語の音訳の必要性が生じてきたために、漢字と字喃に加えて国語字を交えた体裁が生まれてきたものと推測される³⁰⁾。

ただし、本書では、漢文・字喃中に交えられた国語字は少ない（106字のみ）。これはベトナムにおける20世紀初頭の文献の特徴の一つであるといえよう。

2 『西南仁進歌』(VNv. 62) 中の原文

本章では紙幅の関係上、第一の「次送吒嚴猥孝（陳英宗帝）」の説話（散文と韻文）をとり上げ、あわせて語釈（韻文のみ）と日本語訳をつけておきたい

字喃部分については、次の方針によった。

- (1) Vietnamese nôm preservation foundation による Nôm Lookup Tools (http://nomfoundation.org/vnpf_new/index.php?IDcat=51) に登録された字喃フォントを使用した。
- (2) Nôm Lookup Tools にない文字の場合は、トアン・ホア出版社（2007）の『大字典字喃』あるいは漢字字喃研究院に所蔵されている文献の画像を貼り付ける。
- (3) 欠字の場合（1字分）は□で示す。
- (4) 語釈の結果を示す際、わかりやすくするため各句に番号をつけた。

『西南仁進歌』 龍飛啓定壬戌冬十二月立春日 常信上亭 石庵張甘榴撰
 郭嘯衞膺仁辭送肝脛羈仁進巴 行菱肅数衞送 福安堂藏板

〔第一話の散文 黄高啓作〕

次送吒嚴猥孝

陳仁宗帝趙朱猥猥英宗、稱猥上皇、出家修於安子庵臥雲仍共堆欺術邇京師。最嘯衞膺衞得徐府天長術、猥准閩鄉茄陳妬。猥嘯醞醞空器侯特。諸担壺柑午、得嘯吏空賃猥、衞多呂、駝左右白唆猥因嘯節卒醞醞空敢器侯、慄失儻。得衞多恨夥付各官即刻躑得術府誼旨諭。邇諸猥買醒慄駝邇蹟趙移坦罌閨宮賃猥學徒猥猥段汝諧、嘯唆些得罪貝方上皇閩多表謝、麻各官躑得龜奇、舐固多特空。舐汝諧拚筆曰双踰。

28) 岩月純一「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」（『漢字圏の近代 ことばと国家』、東京大学出版会、2005年）131～148頁参照。

29) Dương Quảng Hàm, *Việt Nam văn học sử yếu* 『ベトナム文学史要』（Bộ giáo dục Trung tâm học liệu 出版、1968年）91頁。

30) 佐藤トウイウェン、清水政明、近藤美佳「『國風詩集合採』——阮朝ベトナムにおける漢字・字喃・国語字表記の詩集」（『大阪大学世界言語研究センター論集』第7号、大阪大学世界言語研究センター、2012年）263～283頁参照。

希拱汝諧措船掉咄、玗𪔐、差汝諧枕表臥跪麻希和直外。徐𪔐咄斯朝歪干湄𪔐蘇共空敢動輪。方上皇買差枕表貼賃陞𪔐懇切買憐希臥責咄陞絕墨。希裡呼紹板、𪔐氏買𪔐他朱。希術朝朱汝諧多御史中贊。徐妬希共賒醢、事氏割於越南欽定。

黃相公盤唆、希仁宗祀吐醺醺沈少咕責。希英宗認恆麻撕輪。勞時吒吡寔寔罕嚴、麻飛蜆吒共寔罕孝。冊固筭是父是子沛鬱。德上皇出家朱輒用筭慈悲罕姜回嗔作喜罕姜喜捨、罕姜憐愍衆生。啗籍冊固筭令主、魁茄先治家奴治他。方言固吶埃共固吒固嫫、極埃曾歲米蓬。渚源樓格即罕筭水源木本。開化、翁教師大學常鳴披薩演說於會致知固吶開化固渚魁渚縷。渚南開化魁渚法欣迷軒辭。悲唵渚法文明進步更魁渚南、罕黠在渚南只悒事虛文、空紹少寔學。缶空寔和役夷共只罕炤例虛文麻催。方言固吶唆、固移買固租麻寔天下空固錮中立。噯空進時沛躊。撲尼固茄渚捌掃虛塘文明沛故力買特、云々。

〔日本語訳〕

陳の仁宗帝は子の英宗に皇位を譲り、自分は上皇を称し、安子山の臥雲という庵で出家したが、たまに京師を訪ねて帰った。旧暦5月5日、上皇が陳家の故郷であった天長府から京師に帰った際、帝は酒に酔ったために上皇に奉仕することができなかった。昼に、正午の食事を差し上げた際、上皇は帝が面会に来なかったため、不思議に思い、左右の官員に聞くと、「帝が節日なのですっかり酒に酔ってしまい、敢えて奉せず、失礼を心配して顔を出さない」と答えた。上皇はたいへん立腹し、勅旨を聞かせるため、官吏たちと一緒に府へ帰るように命じた。昼過ぎ、帝は起きてその情報を知り、恐れて裸足で外へ走った。帝は王宮の門で段汝諧という学徒に出会い、「朕は上皇に過失を犯し、謝罪の表を作りたいが、すべての官吏たちは上皇と一緒に府に行ってしまった。お前はその表を書くことができるか」と聞いた。汝諧は速やかに書き終わった。帝は汝諧と一緒に、船で夜を徹して天長府に行き、朝になって、汝諧は跪いて表を上皇に提出するように命じた。一方、帝は外で待ち続けた。朝から夕方まで激しい風雨に遭ったが、帝はそのまま同じところで動かなかった。その時、上皇は表を見せるよう言いつけ、表に書いてある懇切な言葉を読んだ後、帝に上皇の前で伺候することを許可した。上皇は帝をたいへん厳しく叱った。帝は礼拝しつつ、誤りを認めた。こうして上皇は帝の過失を許した。帝は朝廷に帰り、汝諧を御史中賛に補した。それ以後、帝は酒を断った。このことはベトナムの『欽定』³¹⁾に書かれている。

黄相公は「仁宗帝は酒に酔ったことを叱られた。英宗帝は過失を認め、身を修めた。父は子に厳しく教育し、子は父に至孝に奉じた。善い名声は書物には『令主』という語がある。『先家』は先に家を治め、次に他のことを治めることである。『誰でも父母がおり、土地の割れ目から生まれた人はいない』という諺がある。『渚源樓格』すなわち水源と木の本である。『開化』については、雪波盛大学教授が『致知』会の演説で、開化というのは先に開化した国があり、遅れて開化した国がある。南国はフランスより千年以上早く開化した。しかし、現在、フランスは南国より進歩している。それは南国が形式的な文章を中心として、実学を重視しなかったためである。実学をしない結果、いかなることもいい加減に済

31) ここには「欽定」という書名が記されている。ベトナムの欽定史書には「欽定大南會典事例」、「欽定越史通鑑綱目」の二つがあるが、筆者が調べたところでは、陳の英宗帝が酒に酔った話は「欽定越史通鑑綱目」に記されている。ここでの「欽定」は「欽定越史通鑑綱目」と理解される。

ますことになる。『進むことがあれば、到着がある』という諺がある。それは事実であり、天下には途中で立ちどまるものはない。進まない、必ず後退する。この機会に国が文明の道へと進むため尽力にしなければならない」と評論した。

〔第一話の韻文 張甘榴作〕

1. 𪛗些埃米𪛗坦𪛗。 2. 埃埃調博娛生𪛗。 3. 𪛗源𪛗格𪛗𪛗。 4. 功恩𪛗辱埃麻女𪛗。
5. 𪛗𪛗洲如印𪛗𪛗。 6. 只固調開化𪛗𪛗。 7. 𪛗𪛗𪛗孝傳𪛗。 8. 李公文馥𪛗𪛗𪛗。
9. 𪛗些貝西方各𪛗。 10. 群𪛗𪛗吏𪛗𪛗。 11. 演𪛗底共𪛗𪛗。 12. 𪛗𪛗𪛗傳𪛗𪛗𪛗。
13. 陳英宗𪛗賢課𪛗。 14. 節重陽𪛗祝𪛗𪛗。 15. 上皇𪛗𪛗恨台。 16. 𪛗傳文武𪛗𪛗天長。
17. 𪛗𪛗𪛗𪛗買𪛗。 18. 𪛗驚𪛗坤併𪛗埃。 19. 𪛗宮𪛗𪛗汝𪛗。 20. 𪛗𪛗表𪛗𪛗𪛗切他。
21. 連𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗。 22. 𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗。 23. 𪛗𪛗買𪛗𪛗𪛗。 24. 買𪛗𪛗𪛗傳依回朝。
25. 別𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗。 26. 𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗。 27. 𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗。 28. 𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗。

〔語釈・校訂〕

1. 𪛗些 (người ta) : 人。埃 (ai) : 誰。米 (mọc) : 生える。𪛗 (trong) : 中。坦𪛗 (đất nứt) : 亀裂した土地。
2. 埃埃 (ai ai) : 誰も。調 (đều) : 皆。博娛 (bác mẹ) : 父母。生𪛗 (sinh ra) : 生み出す。
3. 𪛗源 (nước nguồn) : 水源。𪛗 (cây) : 木。格 (gốc) : 根。𪛗 (kia) : あの。𪛗 (là) : ～である。「𪛗源𪛗格」は成語の「水源木本」による。
4. 功恩 (công ơn) : 恩。𪛗辱 (khó nhọc) : 苦勞する、骨の折れる。埃麻 (ai mà) : ～する人。女 (nữ) : 耐え忍ぶ。𪛗 (quên) : 忘れる。
5. 𪛗 (suốt) : ～中 (じゅう)。𪛗洲 (năm châu) : 五州。如印 (như in) : 生き写しのような、そっくりの。𪛗 (một) : 一。𪛗 (dạ) : 心。
6. 只 (chỉ) : ただ～だけ。固 (có) : ある、いる。調 (điều) : 事、条項。開化 (khai hóa) : 文化を開き発展させる。𪛗𪛗 (trước sau) : 前後。
7. 𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗 (hai mươi bốn hiếu) : 二十四孝。傳𪛗 (truyện Tàu) : 中国の説話。
8. 李公文馥 (Lý Công Văn Phúc) : 中国の「二十四孝」を字喃で「双七六八体」の詩体で翻案した「二十四孝演歌」の作者。𪛗 (treo) : かける。𪛗𪛗 (lầu lầu) : きらきら光る。𪛗 (gương) : 鏡、鑑。
9. 𪛗些 (nước ta) : わが国。貝 (với) : と一緒に。西方 (Tây phương) : 西洋。各𪛗 (các nước) : 各国。
10. 群 (còn) : まだ。𪛗 (nhiều) : 多い。𪛗 (người) : 人。吏 (lại) : その上まだ。𪛗 (nước) : 国。𪛗 (gương) : 第8句参照。𪛗 (trong) : 澄んだ、明瞭な。
11. 演𪛗 (diễn ra) : 演義する。底 (đề) : ～するために。共 (cùng) : 一緒に。𪛗 (soi) : 差し込む、見る。𪛗 (chung) : 共同の、お互いに。
12. 𪛗𪛗𪛗𪛗𪛗 (hai mươi tám truyện) : 二十八の話。𪛗 (cứ) : ～に拠る。𪛗 (trong) : 1句参照。史 (sử) : 歴史、歴史書。傳 (truyền) : 伝える。
13. 𪛗 (vua) : 皇帝。賢 (hiền) : 優しい。課𪛗 (thuở trước) : 昔
14. 𪛗 (rượu) : 酒。祝 (trót) : うっかり～してしまう。𪛗 (quá) : 超える、とても。𪛗 (say) : 酔う。

15. 秩(chợt)：突然。跣(tới)：来る、着く。恨(giận)：怒る。台(thay)：何と(形容詞または文末につける感嘆詞)。
16. 令傳(lệnh truyền)：命ずる。會(hội)：集まる。直 ngay)：直ぐに。
17. 過(quá)：第14句参照。晝(trưa)：昼。殫(dần)：まで。暎暎(mơ màng)：ぼんやりと。買(mới)：～したばかり、初めて～する。
18. 掣(xiết)：どれほどか、本当に。驚惶(kinh hoàng)：恐れ戦く。坤(khôn)：～しがたい、～することができない。併(tính)：考慮する。怙(cậy)：依頼する。埃(ai)：第1句参照。
19. 闕(cửa)：門、入口。宮(cung)：王宮。義(may)：幸いに。返(gặp)：会う。汝諧(Nhữ Hài)：氏名。
20. 授(mượn)：借りる、頼む。多(làm)：～する。表(biểu)：皇帝に捧げる文書。謝(tạ)：謝罪する。余(mấy)：いくつかの。喙(lời)：言葉。切他(thiết tha)：熱心な、熱烈な。
21. 連(liền)：直ちに。晝(đêm)：夜。氏(ấy)：その。衝坡(xông pha)：突入する、ものともしない。湄雨(mưa gió)：風雨。
22. 仁(hai)：二。君倅(vua tôi)：君臣。朝(sáng)：朝。燦(tò)：明るい、明瞭に。入(vào)：入る。
23. 逾(thâu)：～を通して、中(じゅう)。晷(ngày)：日。買(mới)：第17句参照。轉(chuyển)：変える、転化する。
24. 買(mới)：17句参照。哪(vâng)：承知する。旨(chi)：勅旨。回(hồi)：帰る。朝(triều)：朝廷、王宮。
25. 別(biệt)：知る。身(mình)：自分。悞(lỗi)：誤り、過失。空(không)：～でない。調(điều)：第6句参照。跼(ngại)：躊躇する。樹(đổi)：変える、変更する。
26. 吒(chà)：父。強(càng)：さらに、～すれば～するほど。孩(con)：子供。洩喧(nổi tiếng)：有名な。簪(lành)：よい。
27. 魁(trước)：第6句参照。茄(nhà)：家。隣(sau)：第6句参照。渌(nước)：第10句参照。停停(rành rành)：明らかな。「魁茄隣渌」は『礼記』大学篇「齐家治国」による。
28. 渌唼(chớ rằng)：～だとはわかっている、～ではあるけれども。固(có)：第6句参照。寛他(khoan tha)：寛容な。

〔日本語訳〕

土の割れ目から生まれた者は誰もいない。誰もみな父母から生み出された。水源、木の本のように、父母の苦勞に満ちた育ての恩は誰がどうして忘れようか。「孝」は世界中、どの国にもあるが、異なるのは先に開化した国があり、遅れて開化した国がある。中国の二十四孝の説話は、李文馥にとっては明るい鑑として翻案された。わが国と西洋各国には明瞭な鑑、見習うべき手本となる人も多くいる。相互に見習うため、それを紹介する。二十八の説話は歴史により引き出された。

陳の英宗は昔の賢明な帝である。重陽の節にうっかり酒を飲み過ぎ、たいへん酔ってしまった。上皇が突然来て、そのことに怒り、文武百官に天長府へ集まるように命令した。英宗帝は昼を過ぎてから、ぼんやりと起きて自分の過失を知り、本当に恐れおののき、誰にお願いすべきかわからなかった。王宮の門で幸いに汝諧に出会い、熱烈な言葉で書いた謝罪の表を作るように頼んだ。直ぐに、その日の夜、



図6 『西南仁道孝演歌』第3葉表



図7 『西南仁道孝演歌』第1葉裏

風雨をものともせず天長府に行き、二人の君臣は朝になってから跪いて謝罪した。一日中謝罪して、許してもらった。上皇の勅旨に従い、みな朝廷へ帰るように命令を伝えた。帝は自分の失敗を認識し、身を修めることに躊躇しなかった。父は厳しければ厳しいほど、子は善い人として名をはせる。家は先であり、国は後であることは明らかである。父子関係で寛容な情けがあったと思うべきではない。

なお、帝が酒に酔った時期は上引の張甘榴の韻文には「重陽」（すなわち五節句の一つ、旧暦9月9日）とあるが（図6下段の傍線部分を参照）、黄高啓の散文には旧暦5月5日とあり（図7上段の傍線部分を参照）、互いに差異が見られる。いま『欽定越史通鑑綱目』、『大越史記全書』を調べると、両者とも5月に英宗帝が酒に酔ったと記しているため³²⁾、5月5日が正確な日付であると確認できる。

四 『西南仁道孝演歌』から見たベトナムの「孝」思想

紙幅の関係上、例示として第1の説話についてのみ紹介したが、ベトナム人、外国人を含む28孝子の説話の内容、標題を総括して考察してみると、ベトナムの「孝」思想を窺うことができるように思われる。ベトナム人はどのような孝の型を重視するかを知るため、ひとまず28人の孝子の内容を以下の10類に分けてみる。

32) 阮朝国史館『欽定越史通鑑綱目』正編卷八(NLVNPF-0174-06)（ベトナム国家図書館の電子文）第二十七葉表、および陳荆和『大越史記全書』校合本、本記全書卷之六（東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター刊行委員会、1984年）377頁参照。

	孝の類型	『西南仁進猷孝演歌』
1	敬親型	次進叱嚴猷孝（陳英宗帝、第1 厳しい父、孝行の子） 次罰認愧在輪（嗣德帝、第4 自分の過失を認める） 次進叱賢猷孝（阮文就、第13 優しい父、孝行の子）
2	養親型	次進黠牠楷餒親（阮弘、第17 米を搗き、父に孝養する） 次仁進仁糧餒吒媛（氏名不明、第22 給料で親に孝養する） 次仁進猷移於餒媛（伊那阿、第28 母に孝養するため、召使いとなる）
3	奉親型	次進邪餘妃孝（紹治帝、第3 孫が至孝に祖母を奉ずる） 次進累媛貞猷孝（阮文璋、第14 貞婦の母、孝行の子）〔苦孝型でもよい〕 次進猷密處家庭（阮庭濟、第18 巧みに家庭を処理する）
4	追慕型	次進緬貨物牧親（黃金燦、第15 物を見て親を思い出す） 次仁進累吻特貨吒（咽森氏、第24 父にいつでも会える） 次仁進移顯昂牧親（各能、第26 高貴になったとき、親を思い出す）
5	忠孝型	次緬袍忠多孝（興道大王、第5 忠を孝にする） 次黠推孝署忠（阮鷹、第7 孝から忠になる） 次仁進移爾麻忠孝（喃巴膠、第21 幼い年齢であるが忠孝である）
6	孝悌型	次進修孝友論院（潘三、第19 孝悌を完璧に実施する）
7	苦孝型	次猷縛鉋歇惡（阮文程、第8 母の治療のため、針鼠を捕らえるよう尽力する） 次進酷虎祭吒（阮文名、第9 虎の肉を父に祭る） 次進打毆救媛（阮春盛、第10 虎を打ち、母を救う） 次進移纏猷猷媛（阮九逢、第11 子を見捨て、母を背負う） 次進仁娘姉節孝（氏名不明、第12 孝行の嫁） 次進秋猷罪朱吒（阮居仕、第16 父の代わりに罪を受ける） 次仁進緬猷布趙賊（阿悲厥、第25 賊から逃げるために父を背負う） 次仁進黠針針救吒（拈砂壁泥、第27 魚を刺し、父を救う）
8	礼孝型	次仁進強強強孝（裴輝賛、第20 年をとればとるほど親孝行をする） 次仁進叱供賦敬誠（刊、第23 命日に誠心こめて供養する）
9	順孝型	次仁孝情森珥（明命帝、第2 孝と情の軽重）
10	愛親型	次猷主誕跪吒（韶陽公主、第6 父が亡くなったあと、子も亡くなる）

この分類から知られるように、『西南仁進猷孝演歌』に見えるベトナムの「孝」思想には下記の7タイプがあるといえよう。

1 孝は忠と密接な関係がある

ベトナム歴史的に戦争、戦乱が多かったため、祖国、民族の問題を父母や家庭の上位に置かなければならない場合もあった。それは国を失うならば家もないという思考によるものである。換言すれば、ベトナムの「孝」は家族の範囲を越えて社会的役割を担うよう幅広く転換された。

2 孝の対象は父母だけではなく祖父母、祖先にも広がる

『ベトナムの信仰』にも指摘されるように、ベトナム民族は「礼」を重視するため、「恩義」が大切なことと考えられた。祖先は祖父母を生み、祖父母は父母を生み、父母は自分を生んだ。孝子は父母の生成の恩を忘れてはいけな。よって「親孝行をする際、自分の根源である祖先及び祖父母に対する孝行

も行わなければならない」³³⁾とされる。

3 孝は親を尊敬し、親の言葉を聞きつつ、家風、家礼、家庭の教育を維持発揮させる

たとえば第13の説話では、父子二代が親孝行を維持しつつ実施したという。第1、第4の説話には父と母が厳しく教育したため、皇帝である子も親を畏怖し、賞罰を自覚的に受けとめた。これは、子は父母の行為を真似るため、父母がその鑑にならなければならないということであり、家庭の教育や家風、家礼の役割を重視するものである。

4 孝は礼を離れない

28の説話の中で、第10、第13、第14、第15、第17、第18、第20、第23、第24の9説話を苦孝型、敬親型、奉親型、追慕型、養親型に分類したが、その内容は夕べに父母の寢床を定め、朝に父母の安否を省みる「昏定而晨省」、墓の傍らに廬を作って三年間見守り、毎日哀しみを尽くす「喪則致其哀」、祖先の命日などをきちんと祭る「祭則致其嚴」など、いずれも礼と密接な関係がある。換言すれば、「養親」、「奉親」、「敬親」という「孝」の心情が「祖先礼拝」、「祖先追慕」、「祖先祭礼」といった礼の実践へと展開している。Toan Ánh氏は「親が没したあと、葬儀を行うこと以外に、子孫は親、祖父母、祖先を礼拝しなければならない。「祖先礼拝」というのは家に祭壇を置き、朔望の日³⁴⁾、命日、正月に崇拝しなければならないことである」と述べた。また「祖先崇拝はベトナム人の特殊かつ最重要な責任、義務である」³⁵⁾とも指摘される。Phan Kế Bính氏も「わが国の祖先崇拝の習慣を考察する際、皆が祖先を真心から尊敬しつつ拝礼する。それは人間としての礼儀であり、本質、祖先を忘れないことといえよう」³⁶⁾と述べている。

5 孝は親を愛し、従順、奉侍を尽くす。場合によっては、命、名誉、権利、愛情など自己のことを忘れる。

この例としては、第9、第10、第11、第12、第16、第25、第27などの説話が挙げられる。そのうち第16の説話は阮居仕氏が父の代わりに罪を受けたという内容であるが、これは『五孝子伝』に記載されている日本の江戸時代の伊知らの五人の子供たちの孝子説話³⁷⁾や、中国の漢時代の緹縈氏の説話と同様である。また、第11の説話において、洪水にあった父親は同時に母と子を救うことができず、まず母を救い、あとで子を救おうと思ったが、子のところに戻ると子の姿が見えなかったという。ここで注目したいことは、この説話が中国の「二十四孝」の「郭巨」説話と似ているように見えることである。しかし注意して見ると、「郭巨」の説話ほど苛酷ではない。さらに、第6の説話では、皇帝である父が亡くなっ

33) Toan Ánh, *Nếp cũ-Tín ngưỡng Việt Nam, quyển Thượng* [ベトナムの信仰] 上巻 (Xuân Thu本屋、1966年) 再版印、22頁。

34) 朔望の日とは、旧暦一日と十五日である。

35) Cao Văn Cang, *Hiếu hạnh xưa và nay* [昔と現在の孝行] (Văn hóa dân tộc出版社、2006年) 134頁。

36) Phan Kế Bính, *Việt Nam phong tục* [ベトナムの風俗] (Thành phố Hồ Chí Minh出版社、1990年) 25～26頁。

37) 湯浅邦弘『江戸時代の親孝行』(大阪大学出版会、2009年)に詳しい考察がある。

たことを知った娘の王女は悲哀にたえきれず、父の後を追って亡くなったとある。このような形で親への深い愛情を示す話は「二十四孝」説話に見えない。

6 孝は悌を含み、仁を実行する

第19の説話には孝、悌を実行したため、家族は和睦し、母親を満足させたという。すなわち、孝は『論語』学而篇に「孝悌也者、其為仁之本与」という、「仁」を実現する根本となっている。

7 孝は階級、国籍、貴賤、男女、長幼、老若を問わず万人が実行できるもので、人間に不可欠な基本道徳である。

28の孝子説話は帝、王女、官吏といった貴族階級、民衆、男性、女性、幼児、老人、ベトナム人、外国人などさまざまな人々を含む。人間であれば誰でも「孝」を実行できるのである。つまり『孟子』離婁篇上に「不得乎親、不可以為人。不順乎親、不可以為子」とあるとおり、人間としての資格を失うことになる。

以上、説話の内容に沿って上記の類型に分けてみたが、孝を実施する対象を考えると、『西南仁進孝演歌』には母に対する孝を語る説話が12例、父に対する孝を語るものが10例、両親への孝を語るものが4例、祖父母への孝と祖先に対する孝を語る説話がいずれも1例ある。

一方、『日記故事』系の「二十四孝」説話には、母への孝を語る説話が14例（漢文帝、曾参、閔損、孟宗、江革、陸績、唐夫人、王祥、郭巨、朱寿昌、蔡順、姜詩、王裒、黄山谷）、父への孝を語るものが4例（董永、楊香、庾黔婁、黄香）、両親への孝を語るものが6例（大舜、仲由、刻子、呉猛、老萊子、丁蘭）あるが、祖先や祖父母への孝を語る説話は見あたらないという違いもある。

おわりに

20世紀初めに誕生した黄高啓・張甘榴『西南仁進孝演歌』はそれまでのベトナム「二十四孝」関連文献が中国の「二十四孝」説話を踏襲していたのとは違い、ベトナム人および西洋・日本の孝子28人の説話を収めるという独特の内容をもっている。これはベトナムの民族性の自覚とともに、ヨーロッパやアジアに広く目を向けようとする20世紀初頭の潮流を反映したものである。韻文の部に少数ではあれ国語字が用いられているのも、当時のベトナム文献における新たな特徴の一つであるといえよう。

なかでも外国人の孝子説話を入れたことは、近代に至って西洋の文化と交流し、グローバルな傾向を強めたベトナム社会を背景とし、「孝」は国籍の別なく万人が実行しうる道徳であることを強調するものとなっている。西洋文化の影響を受け、一方でみずからの独自性を見出すことにより、中国の思想、観念は必ずしも唯一の規範ではなくなったといえる。

思想面から見ると、本書に記された「孝」は、その最も基本的な条件である「養親」、「奉親」、「敬親」という「孝」の狭い意味から、国家、民族の権利を優先させ、愛国心や祖先崇拜、祖先祭祀といった「孝」の広い意味を包括するものとなっているが、それは当時の国際状況や家庭教育の過程から結晶したものである。換言すれば、本書においてベトナムの「孝」思想は家族道徳、家庭文化から社会的道徳へ

と転換されつつあるといえよう。『礼記』祭統篇に「是故孝子之事親也、有三道焉。生則養、没則喪、喪畢則祭」といい、『中庸』第十九章に「踐其位、行其礼、奏其楽、敬其所尊、愛其所親、事死如事生、事亡如事存、孝之至也」といい、『論語』学而篇に「其為人也孝弟、而好犯上者鮮矣。不好犯上、而好犯上而好作乱者末之有也」といい、『後漢書』韋彪伝に「求忠臣必於孝子之門」という。本書に語られたベトナム独自の孝子説話は、こうした語の示す思想を生き生きと示している。このような「孝」の精神は、家風、家礼、家訓などを含むベトナムの伝統的な特色ある家庭教育の文化が形成され、家族における孝子と、国における忠臣を誕生させることに寄与することになった。

字喃の『西南仁道歌(孝演歌)』が生まれたのは「二十四孝」説話の越化であったといっても過言ではない。本書はベトナム人の孝子の説話を多く語るものであるため、中国の「二十四孝」説話に比べて、ベトナムの人々により親しみやすいものとなっている。本書のような「勸孝」の書物は、ベトナム人の家庭生活の「孝悌」精神を支え、家庭の各メンバーの責任意識、社会の安定を強調し、さらに親族の情義を発展させることに貢献したのであり、封建社会だけではなく現代社会においても一定の価値があると思われる。